



プレスリリース

2025年5月29日

Lime株式会社

## アジア最大級のグローバル・スタートアップ・カンファレンス「SusHi Tech Tokyo 2025」にLime日本代表 テリー・サイが登壇

～「脱炭素にはグリーンモビリティによる行動変容が不可欠」と提言、テクノロジーで描く未来都市を議論～

世界5大陸30カ国以上で電動モビリティのシェアリングサービスを展開する、Lime株式会社（ライム、本社：東京都港区、日本カントリー・マネージャー兼アジアパシフィック地域統括責任者：テリー・サイ）は、2025年5月8日（木）～10日（土）に開催された、東京都主催のアジア最大級グローバルスタートアップカンファレンス「SusHi Tech Tokyo 2025」にて、当社日本代表のテリー・サイが登壇したことをお知らせいたします。



テリー・サイは、5月8日（木）に行われたセッション「行動変容×テクノロジーで描く脱炭素都市の未来」に登壇し、グリーンモビリティ（※1）の社会実装が都市の脱炭素化に果たす役割について議論しました。

本セッションでは、企業のGHG排出量可視化やテクノロジーによる生活者の行動変容の促進など、脱炭素社会の実装に向けた様々なアプローチが紹介されたほか、日本では99.9%が中小企業であるという構造的な特性から、個別の脱炭素の取り組みだけではインパクトに限界があることから、「企業間・組織間の連携によって、取り組みを広げていくことが重要」といった内容が議論されました。



また、世界30カ国以上で展開し、各地域の規制や実情にあわせて車両開発・安全設計を行っているLimeの取り組みについても紹介。そのうえでテリー・サイは、「東京は素晴らしい都市だが、交通量や渋滞、CO2排出といった課題が依然として存在している」点を伝え、60%以上の自動車移動が6マイル(約10km)以内であるという実態を踏まえ、短距離移動におけるグリーンモビリティの重要性を訴えました。

さらに、東京にも、ロンドンなどヨーロッパの都市に見られる電動モビリティ優先ルートの“グリーンレーン”<sup>(※2)</sup>や、“グリーンモビリティ”の量を増やす余地が大きくあることを解説したほか、自転車レーンが整備されつつある23区の一部のエリアでの取り組みも紹介しながら、「東京全体が学び合いながら、よりサステナブルな都市に進化できる」ことを伝えました。

※1「グリーンモビリティ」とは：電動モビリティの中でも、特に環境負荷の少ないエネルギー源を活用し、持続可能な都市づくりに貢献する新しい移動手段の総称。電動自転車や電動シートボード、電動シェアモビリティなどが該当する。

※2「グリーンレーン」とは：電気自動車(EV)やハイブリッド車、eバイク、電動シートボードなどの環境負荷の少ないモビリティが優先的に通行できる専用車線やルートのこと。

## ■ 登壇セッション概要

- 日時：2025年5月8日(木) 13:00～13:45
- 会場：Tokyo Stage (ZoneC)
- セッション名：「行動変容×テクノロジーで描く脱炭素都市の未来」
- 内容：「生活者起点の脱炭素」という視点から、企業のサプライチェーン全体のGHG排出量の可視化のチャレンジ、都市型マイクロモビリティで環境負荷を軽減する社会インフラの構築と、人間の“行動変容”を促すアプローチについて、それぞれの立場から議論する。テクノロジー、都市、行動科学が交差するこの三者のコラボによって、「脱炭素の実装」を一歩進める未来像を参加者に提示する。
- 登壇者：

テリー・サイ(Lime日本カントリー・マネージャー兼アジアパシフィック地域統括)  
坂本晃一氏(パーセフォニ ジャパン合同会社 日本法人代表)  
佐座槇苗氏(一般社団法人SWITCH 代表理事)

 未来の都市を構想する Energy Day1 Tokyo Stage (ZoneC) 13:00-13:45

### 行動変容×テクノロジーで描く脱炭素都市の未来

Powered by Persefoni

「生活者起点の脱炭素」という視点から、企業のサプライチェーン全体のGHG排出量の可視化のチャレンジ、都市型マイクロモビリティで環境負荷を軽減する社会インフラの構築と、人間の“行動変容”を促すアプローチについて、それぞれの立場から議論する。テクノロジー、都市、行動科学が交差するこの三者のコラボによって、「脱炭素の実装」を一歩進める未来像を参加者に提示する。

※このセッションはセッション実施後1.5時間後を目安に見逃し配信が行われる予定です。(見逃し配信視聴のご案内)



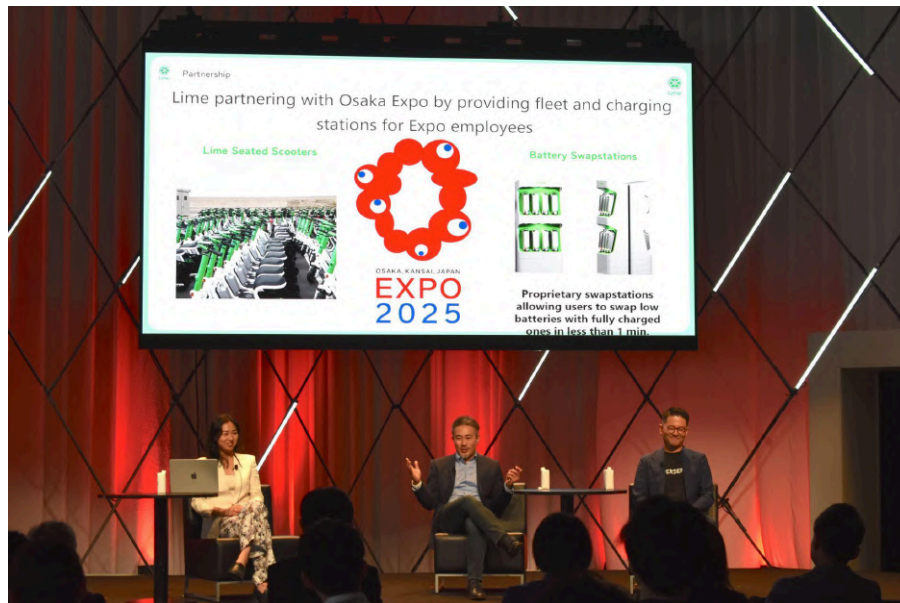
坂本晃一  
パーセフォニ ジャパン合同会社  
日本法人代表



Terry Tsai  
Lime  
Japan Country Manager &  
Regional Director of Asia  
Pacific



佐座槇苗  
一般社団法人SWITCH  
代表理事



▲登壇風景:左よりSWITCH代表 佐座氏、Lime日本代表 テリー・サイ、  
パーセフォニ ジャパン合同会社 日本法人代表 坂本氏

## ■ 登壇の背景

Limeは、「Build a future where transportation is shared, affordable and carbon-free(電動マイクロモビリティが公共交通手段として発展し、カーボンフリーでサステナブルな未来をつくる)」というミッションのもと、電動モビリティの社会実装を世界各地で進めています。

現在、交通・輸送分野は世界のCO2排出量の約25%を占める最大の排出源とされており、気候変動への対応と持続可能な都市づくりにおいて、交通の在り方そのものを見直す必要があります。

Limeは、自動車に代わる短距離移動手段として、約75%のCO2削減を実現する電動モビリティを公共交通の一部として位置づけ、都市の脱炭素化と利便性の両立を目指してイノベーションを推進しています。

そうした背景のもと、今回の「SusHi Tech Tokyo 2025」では、“行動変容×テクノロジー”によって脱炭素都市をどう実現するかという視点から、Limeのグローバルな実践と今後の展望を紹介しました。





## ■ SusHi Tech Tokyo 2025について

SusHi Tech Tokyo 2025は、「持続可能な都市をハイテクノロジーで実現する」というビジョンを掲げた、東京都主催のアジア最大級のグローバル・スタートアップ・カンファレンスです。

Sustainable High-City Tech(=SusHi Tech)という東京発のコンセプトのもと、世界共通の都市課題に対して、最先端のテクノロジーや多彩なアイデア、デジタルノウハウを用いて“持続可能な新しい価値”を創出することを目的としています。

世界中のスタートアップ、大企業、投資家、行政関係者が東京に集い、スタートアップ展示やセッション、ネットワーキングなどを通じて交流を深めながら、国際都市・東京の未来像を共創するための国際的なイノベーションプラットフォームとして展開されています。

・イベント公式サイト: <https://sushitech-startup.metro.tokyo.lg.jp/>

---

## ■ Lime(ライム)サービス概要

電動マイクロモビリティのシェアリングサービス「Lime」は、街中に設置されたポート(駐輪場)にある電動マイクロモビリティを、専用のアプリから予約して乗車し、目的地の近くにあるポートに戻すことができるシェアリングサービスです。Limeのポートであればどこでも返却が可能です。

電動モビリティのシェアリング事業世界最大手として、現在までに世界5大陸30カ国以上で数億回以上の乗車実績があります。Limeのミッションは、「電動マイクロモビリティを公共交通手段として発展させ、カーボンフリーでサステナブルな未来をつくること」であり、自家用車に代わる次世代のクリーンな移動手段の選択を促進しています。

日本では、2024年8月よりサービス提供を開始し、座って乗れる「電動シートボード」と立ち乗り用の2種類の車両を提供しています。



<アプリのダウンロードはこちら>

Apple Store

<https://apps.apple.com/jp/app/lime-ridegreen/id1199780189>

Google Play

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.limebike&hl=ja&pli=1>

#### <利用前の説明事項>

- ・乗車する場合、必ずアプリから安全教育を受講する必要があります。その上で事前テストを受け、全問正解して初めて乗車可能となります。
- ・自賠償保険と対物・対人賠償事故を補償する自動車保険を導入し、利用者が万が一事故に遭った際の補償を確保しています。

---

## ■ Limeの安全・安心への取り組み

Limeは、最先端の技術、安全教育の充実、ライダーへのインセンティブ制度を組み合わせることで、世界最高水準の安全性と信頼性を誇るマイクロモビリティサービスを実現しています。グローバル展開を強みに累計3億回以上の全世界の利用データを活用し、各地域の規制やデータを基に独自設計・開発を行い、随時アップグレードを実施しています。自社で企画から車両開発までを一貫して行うことで、より高い安全性と信頼性を確保しています。

・取り組み詳細はこちら: <https://www.li.me/ja-jp/why/safety>

### 1) 包括的な安全教育 & ファースト・ライド・アカデミー

初めて利用する際には、アプリ内で安全教育プログラムを受講し、事前テストに全問正解することで乗車が可能になります。また、初心者向けの現地講習「ファースト・ライド・アカデミー」も随時開催しており、安全な走行方法を実践的に学べる機会を提供しています。

### 2) ヘルメットセルフイ制度

ヘルメット着用を推奨するため、Limeでは独自の「ヘルメットセルフイ」機能を導入しています。乗車前にヘルメットを着用した写真をアプリでアップロードすると、都度の通常料金から10%割引を受けることができます(LimePassは対象外)。

### 3) 自社開発の車両 & 継続的なアップグレード

Limeでは自社で車両を設計・製造し、各国の規制や実際の利用データを基に、より安全で安定した走行ができるように頻繁なアップグレードを行っています。

### 4) 充実した保険制度

Limeでは、万が一の事故に備え、自賠償保険および対物・対人賠償保険を提供し、利用者が安心してサービスを利用できる環境を整えています。

---

## ■ Limeについて

会社名 Lime株式会社 (英語表記 Lime, K.K)

代表者 日本カントリーマネージャー兼アジアパシフィック

地域統括責任者 テリー・サイ

所在地 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4丁目3番1号

城山トラストタワー9階

東京赤坂法律事務所・外国法共同事務所内

設立 2019年8月15日

URL <https://www.li.me/ja-jp/>

事業 電動モビリティのシェアリングサービス



・日本代表テリー・サイの経歴

テリー・サイは2024年、Limeの日本カントリーマネージャーとアジア太平洋地域責任者に就任。3か国語が堪能で、テクノロジーやコンテンツ、販売、マーケティング、オペレーションの豊富な経験を有する。また家電、通信、ファッション、ライフスタイル、オンラインコンテンツの分野で、ブランド、ビジネス、組織をゼロから立ち上げ成長させてきた。実績としてApple、Netflix、OYOなど大手グローバル企業で重要な役割を果たし、業績に貢献。シドニー大学や華東政法大学で学位を取得。



さらに20年以上を日本で過ごし、プライベートや仕事の経験を通じて日本の習慣や地域社会を深く理解している。JETプログラムを通じて広島県の教育委員会で国際交流員としてオーストラリア文化の普及に取り組んだ経験を有する。

---

【本件に関するお問い合わせ先】

Lime Japan 広報担当: 船木・森

Email: [Japan-press@li.me](mailto:Japan-press@li.me)

---